

第 4 回通常総会・議事録

- 日 時 平成 25 年 5 月 31 日（金）PM10：00～12：30
- 場 所 ちば市民活力創造プラザ 9 階 大会議室
- 来 賓 千葉県健康福祉部健康福祉指導課 法人指導班
班長 山本 智 氏・武隈 智史 氏

○議案

- 第 1 号議案 平成 24 年度事業報告の件
- 第 2 号議案 平成 24 年度収支報告の件
- 第 3 号議案 平成 25 年度事業計画（案）の件
- 第 4 号議案 平成 25 年度収支予算（案）の件
- 第 5 号議案 役員選出の件（案）
- 第 6 号議案 規約の改正（第 4 章 組織 第 10 条の 1 について）

○議事

定刻に至り、会員の過半数を満たしていることを確認して開会した。
（会員数 17・出席 13・委任状 3）

議長：NPO 法人 ヒューマン・ネットワーク 吉谷 健二氏、
書記：特定非営利活動法人 VAIC コミュニティケア研究所・澤村 明子
議事録署名人：ナルク千葉福祉調査センター 西村 寿紀氏
株式会社ケアシステムズ 和田 俊一氏

○来賓講話 山本 智氏

①福祉サービス第三者評価について

- ・福祉サービス第三者評価機関は現在 19 機関である。
- ・第三者評価受審査件数について→24 年度は 32 件であった。うち 16 件が保育所である。23 年度は 56 件であるので大幅減となっている。理由としては、23 年は介護サービス情報の公表とのセット受審を推進してきたが、24 年は情報公表がなくなったこともあるのではないかと考える。
- ・第三者評価を進めるために県として実施したこと→これまで事業所にはパンフレットを配布してきたが、24 年は利用者にも配布した。

②社会的養護施設における第三者評価について

- ・国の調査によると 8 割近くが 3 年目の評価を希望している。3 年目に評価が集中することがないように、評価を前倒しで受けるように県としても働きかけてゆく。

- ・千葉県の受審件数→2件と聞いている。

③地域密着サービス外部評価について

- ・外部評価機関は14機関である。
- ・受審件数について→公表されたものだけで見ると、グループホーム 288 件、小規模多機能型居宅介護事業所 72 件 計 360 件である。
- 外部評価は市町村の条例に基づいて実施されることになっているが、まだ整備ができていない状況である。
- ・25 年度より定期巡回・随時対応型訪問介護看護と複合型サービスが新たに評価対象となる。しかし、まだ調査票が国から示されていない状況である。

④評価実施後アンケートについて→県では評価を受けた事業所にアンケートをとっているが、その中の意見をいくつかあげる→

- 評価結果の内容が専門的すぎる。
- 表現は具体的な方がよい。
- 施設を良く理解した上で来てほしい（全回答の半数以上）
- 専門的知識を持ってきてほしい（20%）

⑤調査票について→昨年度障害者・児の調査票を見直した。見直しにあたり、連絡会にも意見を聞いた。現在 a・b・c 評価は児童館のみである。いずれ見直すつもりである。

今後も県として把握できた情報は速やかに評価機関に連絡していくものである。

【審議事項】	内 容
第 1 号議案 平成 24 年度事業 報告の件	平成 24 年度事業報告を満場一致で可決した。
第 2 号議案 平成 24 年度収支 報告の件	平成 24 年度収支報告を満場一致で可決した。
第 3 号議案 平成 25 年度事業 計画（案）の件	当日資料を配布し、平成 25 年度事業計画を満場一致で可決した。
第 4 号議案 平成 25 年度収支 予算（案）の件	平成 25 年度収支予算を満場一致で可決した。

第 5 号議案 役員選出（案） の件	新たに幹事として後藤 康裕氏、畑中 健夫氏を加えることを提案し、満場一致で可決した。
第 6 号議案 規約の改正の件	規約第 4 章 組織（役員）第 10 条の 1.幹事 4 名以上 7 名以内。監査 1 名を幹事 4 名以上 10 名以内。監査 1 名。とすることを提案し、満場一致で可決した。
その他	・外部評価の営業について→24 年度は価格を前面に押し出した営業が目についた。近年、価格競争になっている傾向があるが、このままでは本来の目的が見失われる。少なくとも今日総会に出席している機関は、そのような営業活動ではなく、評価の質を前面に出した内容で働きかけることを確認したい。

以上

上記議事録のとおり議事のあったことを証するために、議事録署名人は記名捺印する。

平成 25 年 6 月 20 日

議事録署名人 西村 寿紀 印

議事録署名人 和田 俊一 印